

げんざい そろが わどお しょうてんがい そとほり う た たんじょう はん かがい いずみきょうかさく くらゆり めい
 現在の総曲輪通り商店街も、外堀を埋め立てて誕生した繁華街です。泉鏡花作『黒百合』（明
 じ ねんかん なか つぎ ぶんしょう
 治32年刊）の中に、次のような文章があります。

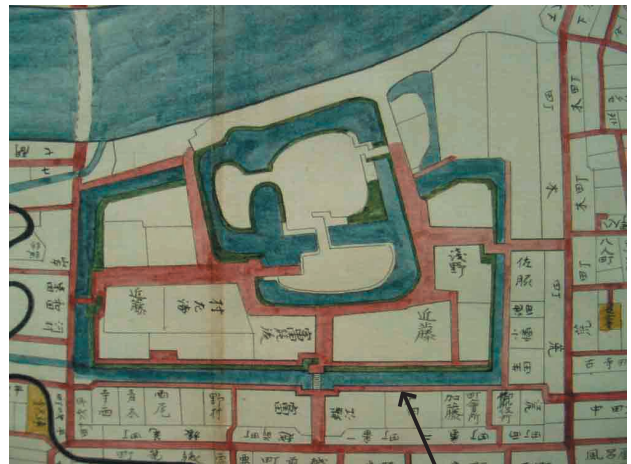
ばすえ とやま にぎや そろが わ おおて さき しる そとほり
 場末ではあるけれども、富山で賑かなのは総曲輪という、大手先。城の外堀が
 のこ みずたまり かたがわまち こあきゆうど のき なら ほり そ ちゅうやこうたい ほしみせ
 残った水溜があって、片側町に小商賈が軒を並べ、壕に沿っては昼夜交代に露店
 だ
 を出す。

めいじ じ だいなか そとほり いちぶ みずたま のこ げんざい そろが わどお
 つまり、明治時代中ごろまでは外堀の一部が“水溜り”として残っていて、現在の総曲輪
 はさ みなみがわ しょうてん みずたま きたがわ どうろ そ ちゅうやろてんしょう なら
 りを挟んで南側には商店が、水溜りのある北側には、道路に沿って昼夜露天商が並んでいたの
 のち みずたま う た げんざい どうろ りょうがわ しょうてん た なら しょうてんがい
 です。後にこの水溜りも埋め立てられ、現在のような道路の両側に商店が建ち並ぶ商店街とな
 りました。



しょうわしょき そろが わどお
 昭和初期の総曲輪通り

めいじしょき どうろ む ひだりがわ
 明治初期、道路の向かって左側には、まだ
 ほり の
 堀の一部が残っていました。



げんざい そろが わどお
 現在の総曲輪通り

てんぽう ねん とやまじょうかす とやまじょうぶぶん
 天保2年（1831）の富山城下図の富山城部分です。

こんなこともありました その2

はいはん ちけん ちよくぜん めいじ ねん はん かいたくがかり
 廃藩置県の直前、明治3年には藩の開拓掛が、
 かなざわ れんこん ね と よ せて そとほり う
 金沢から蓮根の根を取り寄せて外堀に植えた
 という記録があります。恐らく食用にするた
 めだったのでしょう。

せんぜん しゅうせんご ほり れんこん はん
 戦前から終戦後にかけても、堀に蓮根が繁
 殖してました。この写真は昭和26年の堀
 の様子です。

